

## 令和8年度 福島市文化振興審議会 会議録

- ◆日 時 令和8年6月23日（木） 午後2時00分～午後4時00分
- ◆場 所 福島市市民センター303会議室
- ◆出席者 委 員：嶋原明寿委員、清野和也委員、初澤敏生委員、高橋英子委員、小柴俊男委員、  
藤本菜月委員、高橋康委員、須藤康子委員  
事務局：鈴木部長、甚野室長、今野課長、菊田補佐、新井係長、星室長、高橋

### ◆次 第

#### 1 開 会

#### 2 あいさつ

#### 3 会長及び副会長の選任

会長に初澤委員、副会長に嶋原委員を選任。

#### 4 議 事

##### (1) 報 告

①福島市文化振興計画に関連する事業一覧について

②令和7年度文化振興審議会での協議内容（意見）に関する文化振興施策への反映・検討状況について

##### (2) 協 議

①福島市文化振興計画の推進（令和9年度文化振興施策等）について

#### 5 その他

#### 6 閉 会

### ■議事における質疑応答、委員意見の詳細は以下のとおり

|                                          |
|------------------------------------------|
| (1) 報告「①福島市文化振興計画に関連する事業一覧について」質疑応答・委員意見 |
|------------------------------------------|

**(委員)** 今年には駅前でデスティネーションキャンペーンがありましたし、さらにゴッホ展も重なったということで、私たちの団体も駅前でPR活動をさせていただきました。本当に福島にかなりの人が集まったなという印象を持っております。私はゴッホ展の初日に拝見いたしましたが、その時の来場者の様子を見て、本当に皆さん整然と並ばれていて、大変印象的でした。そして一番感じたのは、若いカップルが本当に多かったことです。どこにこんなにたくさんの若い方がいたのかなと思うぐらいで、本当に驚きました。大変混雑しておりましたが、皆さん熱心に美術鑑賞をされていて、美術に興味や関心を持つ方がこんなにも多いのだと感じました。また、ゴッホ展の開催によって、まちなかの

活性化にもつながっていたと感じています。私どもの団体でも駅前でPR活動を行いました。参加されていた皆さんからも大変好評でした。特に、ゴッホにちなんだブルーとイエローを基調とした装飾や演出がとても印象的で、「素敵ですね」「福島に今までなかった雰囲気ですね」といった声も多く聞かれました。色彩も鮮やかで、見ているだけで楽しく、街全体が明るくなったように感じました。

こうした取組は、展覧会だけでなく、まちなかのにぎわい創出にもつながるものだと思います。

**(会長)** 第ゴッホ展について、私からも一つお願いがあります。ぜひ今回の状況について早急に検証・分析を行っていただきたいと思います。来年以降に生かしていくためにも、良かった点や課題を整理しておく必要があると思います。時間が経つと、その時の状況やノウハウが失われてしまう可能性がありますので、ぜひ早めに取りまとめをお願いしたいと思います。また、美術館としては来年の開催が本番になるのではないかと考えています。むしろ来年の方が来場者が増える可能性もあると思いますので、ぜひご対応をお願いしたいと思います。

**(委員)** 県立美術館です。昨年度は、直近ではゴッホ展が大きなイベントでしたが、実はその前に「金曜ロードショーとジブリ展」も開催いたしました。ジブリ展は約21万人という、当館の過去最高入館者数を記録いたしました。その後を引き継ぐ形で開催したのがゴッホ展です。ゴッホ展につきましては、第1期、第2期の2部構成となっており、第2期は来年6月から開催となります。先ほど会長からも「第2期に向けて」というお話がありましたが、第1期の反省を踏まえながら、現在、実行委員会の皆様と一緒に第2期の運営について検討を進めております。先日、実行委員会の幹事会がございましたので、概要を少しご紹介させていただきます。総来場者数は約26万8,500人でした。会期は2月21日から5月17日までの78日間で、福島県立美術館の展覧会としては歴代第1位の入館者数となりました。それまではジブリ展の約21万人が最高記録でしたが、それを上回る結果となりました。現在、同じ巡回展が上野で開催されておりますが、神戸、福島、東京という巡回日程になっております。上野会場は大変混雑しており、土日のチケットがなかなか取れない状況が続いております。そのため、「福島なら比較的ゆっくり見られるのではないかと考えて来場された方もいらっしゃいました。もちろん福島会場も混雑していましたが、当館は神戸や上野の会場に比べて展示スペースに余裕があり、作品同士の間隔も確保されておりますので、比較的ゆったりと鑑賞していただくことができました。上野会場では人気作品について、一番前で鑑賞するための列が設けられており、1時間以上並んで数秒間鑑賞するという状況もあると聞いております。一方、福島会場ではそうした運営は行いませんでしたので、その点は来場者の皆様からも評価をいただいております。こうした状況もあり、第2期についてはさらに福島会場へ来場される方が増える可能性もあると考えております。現在、福島市をはじめ実行委員会の皆様とともに、第2期の運営について検討を進めております。駐車場の問題や日時指定券の運用、高齢者の方への対応など、第1期では様々な課題がありました。スマートフォンを利用されない方からは、「日時指定券の予約が難しい」というご意見もいただきましたので、途中から当日券の販売方法を見直すなどの対応も行いました。そうした課題を整理しながら、第2期に向けて準備を進めていきたいと考えております。一般的には同じ展覧会を2回開催すると、2回目は来場者数が減ると言われています。しかし今回は展示内容が大きく異なりますので、「第1期を見たから終わり」ではなく、「第2期こそ見ていただきたい」という形でPRしていく必要があると考えております。ぜひ皆様にもご支援、ご協力をお願いしたいと思います。また、先ほど環境整備のお話もございましたが、福島市をはじめ関係機関の皆様には大変ご協力をいただきま

した。県外から来られた方々からは、「福島駅に降りた瞬間から街全体で歓迎してくれていると感じた」「街全体でゴッホ展を応援していることが伝わってきた」という感想を多くいただいております。駅コンコース内の生け花作品の展示などについても高い評価をいただきました。第2期も含め、街全体で盛り上げながら、県外から来られる方々をお迎えしていければと考えております。

(会長) ありがとうございます。すみません。こういうことを聞くと怒られてしまうんですけども、この約26万8,500人というのは有料入場者数ですか。

(委員) 無料入場者も含めてです。

(会長) そうですか。では少し減るわけですね。

(委員) そうですね。今回の事業は高校生以下無料というのが大きな特徴でした。県や福島市にも入っていただいておりますので、若い方に見ていただきたいという思いがあり、高校生以下を無料としております。今回、盲導犬を伴って来館された方もいらっしゃいましたし、車椅子利用の方も多く来館されました。東京まではなかなか見に行けないという方にも来ていただけたので、その意味でも大変意義のある展覧会だったと思います。

(会長) それでも大変な数字ですね。

(委員) そうですね。ジブリ展よりも多い数字になりました。神戸会場は50万人を超えていますので、今後はそういった地域からもお客様を呼び込んでいきたいと思っています。ただ、混雑については様々なご意見があります。美術館に慣れている方からは「混みすぎではないか」という声もありますが、東京の大規模展覧会を見ている方からすると、福島会場は非常に見やすい展覧会だったと思います。会場も広く、休憩スペースもありますので、ゆっくり鑑賞できる美術館であることを今後もっとPRしていきたいと思っています。

(会長) 私も拝見しましたが、全く同じ感想です。東京は本当に人が多いですからね。

(委員) 私は残念ながら今年は見に行くことができなかったのですが、来年はぜひ見たいと思っています。観光の立場から申し上げますと、今年は花見山とゴッホ展がセットになっていたと思います。来年もちょうど桃の時期と重なりますので、私たちも「ピーチホリデイ」という取り組みで福島にお越しになるお客様をお迎えしたいと考えています。お客様に「福島にどのようなイメージをお持ちですか」と伺うと、9割以上の方が『福島＝桃』と答えられます。そこで桃だけではなく、ぶどうなど他の果物も含めてPRしています。ピーチホリデイでは、果樹園で発生する規格外品の桃を飲食店やホテル等で活用していただき、パフェなど様々なメニューを提供しています。来年はピーチホリデイとゴッホ展を一緒に楽しんでいただけるようPRしていきたいと思っています。もう一点ですが、旧広瀬座についてです。再オープンを迎えるとのことですが、文化財としての保存・継承はもちろん重要です。一方で、市外・県外、さらには海外からも人を呼び込み、地域にお金を落としていただけるような施設として活用していただければと思っています。保存と活用の両立を期待しております。

(事務局) 旧広瀬座につきましては、再整備事業が令和8年3月に完了し、現在再オープンに向けた準備を進めております。今年の秋の再オープンを目指しており、こけら落とし公演を皮切りに、見学施設としての公開や貸館事業を実施する予定です。多くの市民の皆様にご利用いただき、芝居小屋として再び親しまれる施設となることを目指しております。また、6月議会において条例改正を行い、施設の目的に「地域振興」を加えました。国指定重要文化財として保存を図りながらも、交流人口の拡大や地域活性化につながる施設として活用を進めてまいります。観光部局とも連携しながら取り組

んでいきたいと考えております。

**(委員)** 33 番の「福島歴史絵巻による啓発」のところですが、文化が浸透して福島らしさにつながっていくためには、やはり子どもの頃からのアイデンティティ形成が大切だと思っています。そういう意味で、歴史絵巻による啓発活動は非常に重要な取組だと思います。ただ、実施内容を見ると、10 月 18 日の歴史講座の参加者が 0 人だったという記載がありました。おそらく子どもたちが自ら参加したいと思う内容にはなっていないのではないかと感じています。授業の中で活用できないのか、あるいは歴史絵巻自体も、昨年も申し上げましたが、分かりやすく工夫されているものの、小学校低学年にはまだ少し難しいように思います。例えば漫画化するとか、子どもたちが自ら福島の歴史に興味を持てるような工夫が必要ではないでしょうか。また、歴史人材養成講座も実施されていますので、子どもたちに分かりやすく、面白く話せる方を育成していただければと思います。子どもの頃から地域への愛着やアイデンティティを育てることが非常に大切だと感じています。

**(事務局)** ありがとうございます。歴史絵巻につきましては、学校への周知も行いましたし、それに加えて郷土史家の方々に講師に招き、まち歩きなども企画いたしました。市政だより等でも周知を図りましたが、なかなか子どもたちや、30 代から 40 代の保護者世代の関心を引くまでには至っていないのが現状です。歴史講座への参加者も、70 代から 80 代の方々が中心となっております。そのため、若い世代や子どもたちに、いかに歴史を身近なものとして感じてもらうかが課題であると認識しております。現在、郷土史家や元学校教員の方々と一緒に検討を進めております。今年度は、昔の暮らしで使われた道具を活用した工作講座なども実施し、まずは歴史に興味を持ってもらう取組を進めていきたいと考えております。

**(委員)** 大人だけで考えるのではなく、子どもたちに直接聞いてみるのも良いのではないのでしょうか。どうすれば興味を持つか、学校の先生方にも協力していただきながら、子どもたち自身にアイデアを出してもらう。そうすると、自分ごととして捉えてもらえるのではないかと思います。実は私も、子どもから「これ知らない」と渡されたのが歴史絵巻でした。読んでみて初めて、学校の校歌に出てくる言葉の意味などを知ることができました。自分の生活と歴史がつながることで興味が湧くのだと思います。

**(事務局)** 貴重なご意見ありがとうございます。確かに、子どもたち自身の声を聞くという視点が不足していたかもしれません。学校とも連携しながら、子どもたちの意見を聞く機会について検討していきたいと思います。

**(委員)** 今の話にも関連しますが、歴史や文化に興味を持つ入口としては、「福島市全体の歴史」よりも、自分が住んでいる地域の歴史や地名の由来など、より身近なところから入った方が関心を持ちやすいのではないかと思います。なぜこの地名なのか、どういう歴史があるのかといったところから始めることで、地域への愛着にもつながるのではないのでしょうか。また、全体を通した感想になりますが、子ども向け事業は数多く実施されています。一方で、20 代から 40 代の現役世代を対象とした文化施策はやや薄い印象を受けました。ユニークベニュー事業やコスプレイベントなどもありますが、どうしても一部の層に限定されているように感じます。今後は、その世代にどう文化施策を届けていくかという視点も必要ではないかと思います。さらに、ジブリ展の際に実施された福島駅からのシャトルタクシーは非常に好評だったと聞いております。旧広瀬座を今後さらに活用していくのであれば、アクセス対策も重要です。県外から公共交通機関で来る方にとっては決してアクセスしやすい場

所ではありませんので、イベント時の交通手段も含めて考えていく必要があると思います。

**(委員)** 今、委員から地名の話が出ましたが、私も飯坂町で地名を調べております。そうしましたら、面白いものが出てきたんですね。例えば、小川の鉄砲水の発生だとか、赤川が陥没したとか、米川がせき止められたというようなことが、地名に残っているんです。私は 15、6 年前から、史跡保存会の会長になった頃から、福島市には博物館がないので、ぜひ博物館を作ってくださいということを 3 度ほど提言してきました。しかし、なかなか進んでいないんですね。福島市には目玉になるものが少ないと言われますが、私はこうした地名や災害の歴史こそが目玉になるのではないかと考えています。調べていくと、地名と三つの大きな災害が、福島盆地西縁断層帯に沿って現れてくるんです。そういうものもありますので、福島市もそろそろ博物館について考えていければ、子どもたちの教育にもつながると思います。言葉だけではなかなか伝わりません。例えばジオラマを作り、その上に映像を投影するような展示があれば、子どもたちにも分かりやすいと思います。実際に飯坂から土湯にかけては活断層もあります。地名と活断層の関係なども見えてきていますので、できるなら福島市博物館を作っていただきたいという思いで、今まとめているところです。たまたま地名の話が出ましたので、お話しさせていただきました。県庁所在地で博物館がないのは福島市だけです。ぜひ 10 年くらいの間にでも検討していただければと思います。その頃私はいないかもしれませんがけれども、よろしくお願いいたします。

**(会長)** ありがとうございます。ただいまの内容は後ほどの議題にも関係してまいりますので、またご意見をいただければと思います。

**(委員)** 私は写真美術館に携わっておりますので、国宝・名宝展について少しお話しします。残念ながら駐車場の問題は大きかったですが、一方で会場周辺は大変にぎわっていたという印象を持っています。また、先ほどの地名の話についてですが、地名というのは非常に難しい問題があります。例えば福島大学のある金谷川地区ですが、今の若い人は「金谷川」という一つの地名だと思っています。しかし実際には、金沢・関谷・浅川の三つの地名に由来するものです。こうした歴史的な背景も含めて、地名や歴史は正しく学んでいかなければならないと思います。以上、感想として申し上げます。

**(委員)** 今のお話に関連するんですが、私の住んでいる笹谷の近くには万世大路があります。これは福島の万世町から米沢の万世町までつながっていることから万世大路と呼ばれているんですね。そういう道路名や地名にも、それぞれ歴史があります。仲間町は昔、中間（ちゅうげん）の人たちが住んでいたから仲間町になったという話も聞いたことがあります。そういった地名や歴史を集めていくのはとても面白いと思います。また、福島には漫画家の方もいらっしゃると思いますので、先ほど委員がおっしゃったように、歴史を漫画にして伝える方法も良いのではないのでしょうか。小学生の子どもたちや、その親世代にも興味を持ってもらえんと思います。それから 71 番のロケツーリズム推進事業についてですが、映画のロケが福島スカイラインなどで行われたという話を後から聞きました。私は福島スカイラインは全国的に見ても素晴らしい景観だと思っています。映画などを活用して福島を PR できる大きなチャンスだと思いますので、どのような形で進めているのかお聞きしたいです。

**(事務局)** 71 番の事業につきましては観光交流推進室が実施している事業ですので、文化振興課として詳細を把握しているわけではありません。ただ、映画公開に合わせて、ロケ地となった福島スカイラインや四季の里などの PR を行う予定だと聞いております。

**(委員)** 私どもの協会にもロケ誘致担当がおりまして、市と連携しながら対応しております。今回の作品

は舘ひろしさん主演の映画ですが、映画業界には情報解禁のタイミングがあります。こちらの希望する時期に自由に発信できるわけではなく、公開直前まで情報を出せないこともあります。現在は協会のホームページでも紹介しておりますが、そういった事情があります。

**(事務局)** 私も以前、四季の里を担当しておりました。今回の映画については公開までは外部に出せないという制約が非常に強くありました。そのため、映画公開と同時に福島市としても PR を展開していきたいと考えております。また、先ほどから地名や歴史の話が出ていますが、私自身も以前は歴史や文化にあまり詳しい方ではありませんでした。しかし学習センター勤務時代に、子どもたちと一緒に地名や地域の歴史を学ぶ機会があり、興味を持ってもらえることを実感しました。飯坂地区では、子どもたちが描いた絵をのぼり旗にして、地域全体に掲示したこともありました。今後も学校や子どもたちに積極的に働きかけながら、文化や歴史に親しむ機会を増やしていきたいと思います。どうぞご協力をお願いいたします。

**(会長)** すみません、ついでに一つだけ。基本方針2の基本施策4「文化活動の情報化への支援」についてなんですが、少し弱いのかなというふうに感じております。今、学校では小中高校で STEAM 教育が盛んに行われています。例えば、パソコンが1台あれば楽器がなくても作曲や演奏ができますし、絵も描けますし、動画も作れます。さらに3Dプリンターがあれば立体作品も作ることができます。そういう教育が今は普通に学校で行われている時代になっています。そういった新しいアートや文化活動への支援という視点も入れていくと、文部科学省も力を入れている STEAM 教育との連携も図れるのではないかと思います。それから、これは私の勝手な要望なんですが、「福島市史叢書」についてです。ぜひ PDF 化して、ホームページからダウンロードできるようにしていただきたいと思います。もう百十数巻出ていると思いますが、なかなか入手できないんですね。図書館に行っても見つからないものがありますし、先ほどの地名の話に関連する資料なども絶版になっていて手に入りません。そういったものをインターネットで全国から閲覧できるようにすれば、福島市の大きな財産になると思います。ぜひご検討いただきたいと思います。

**(事務局)** 福島市史叢書につきましては、予算面などさまざまな課題もございますが、本日そういったご要望をいただいたということで、ホームページ等での公開の可能性も含め、今後検討してまいりたいと考えております。

**(会長)** ありがとうございます。復刻再販するよりは、はるかに安価に実施できると思いますので、よろしくをお願いいたします。時間もだいぶ超過しておりますので、この事業一覧に関する質疑はこのあたりで終了したいと思います。委員の皆様からは大変貴重なご意見をいただきました。事務局におかれましては、今後の事業展開の参考としていただければと思います。

|                                                                  |
|------------------------------------------------------------------|
| (1) 報告「②令和7年度文化振興審議会での協議内容（意見）に関する文化振興施策への反映・検討状況について」 質疑応答・委員意見 |
|------------------------------------------------------------------|

**(委員)** 実はですね、私どもの史跡保存会で飯坂町の年表を作ったんですよ。そのときに、私たちもあちこち飛び回って調査したんですけども、飯坂町が合併したとき、それから飯野町が合併したときの資料が、ふるさと歴史館の保存庫にそっくり手つかずで残っているんです。ですから、私どももなかなか調べようがなくて、いろいろなところを探してもらいながら何とか年表を作ったんですけども、これからもう一度見直しをしようという話もありますので、もしできるのであれば、その部分を

ぜひ整理していただきたいんです。ちょうど合併した時期の部分が抜けているような感じになっているんですよ。私どもも年表づくりを進めておりますので、ぜひお願いしたいと思います。実際のところ、私どもも合併した当時の状況がよく分からないんです。私も飯坂に来て50年ぐらいになりますが、その頃に合併したわけです。しかし、皆さん意外と分かっていないんですよ。そういうこともありますので、合併当時の資料を見直していただきたいと思っています。何があったのか分からなくて、商工会や新聞社、それから観光協会などを歩き回って、何とかまとめたんです。もし間違っているところがあれば、どんどん直していかなければなりませんので、そのあたりにもぜひ目を向けていただきたいと思っています。少し場違いな話かもしれませんが、お願いしたいと思います。

**(事務局)** 分かりました。そういった状況について確認し、対応を検討したいと思います。

**(会長)** ほかにいかがでしょうか。

**(委員)** 8番の文化財調査についてなんですけれども、「方言調査を含めた文化財調査」と書いてありますよね。方言というのは本当に無形のものですから、だんだん失われていくと思うんです。テレビなどの影響もあって言葉はどんどん変わっていきますし、ぜひ早めに具体的な調査をしていただきたいなと思います。資料には「検討してまいります」とありますが、現時点で何か具体的な計画はあるのでしょうか。

**(事務局)** 現時点で方言調査をすぐに実施する計画まではございません。ただ、事例として申し上げますと、飯野町史を編さんする際に、大学の先生にお願いして調査を実施したことがあります。ただ、それも1年で終わるものではなく、町史編さんの中で5年ほどかけて調査を行いました。したがって、来年度からすぐ実施できるという段階ではありませんが、必要性については十分認識しております。現在進行中の調査も複数ありますし、やはり5年程度かかる事業もありますので、実施時期はまだ申し上げられませんが、どのように進めていくべきかについては検討していく必要があると考えております。

**(委員)** やはり方言は形として残せないものですからね。文化財のように物として保存できるものではなく、話す人がいなくなれば消えてしまいます。そういう意味でも、ぜひ前向きに検討していただければと思います。

## (2) 協議「①福島市文化振興計画の推進（令和9年度文化振興施策等）について」質疑応答・委員意見

**(会長)** 最初の議題のところでもかなりご意見をいただきましたが、まだ「こういう分野にも力を入れてほしい」といったご意見がございましたら、ぜひお聞かせいただきたいと思っています。

**(委員)** 資料4番にも関わることですが、公会堂が使えなくなったことに関連してお話しします。「あり方や必要性を改めて検証する必要がある」ということは、この数年間ずっと言われ続けています。公会堂が使えなくなり、その代替施設として駅前交流・集客拠点施設を整備するという計画があり、当初はホールの提案なども示されていました。しかし、経済情勢などを踏まえて計画が中止になって以降、この問題について具体的な進展がないように感じています。文化の拠点として必要かどうかを検証するのであれば、文化政策としても具体的に進めていく必要があるのではないのでしょうか。また、回答の中で「さまざまな施設があります」と説明されていますが、用途や機能がまったく異なる施設を一括りにして論じるのは少し乱暴ではないかと思います。利用時間も違えば、客席数も違いますし、使い方も全然違います。そういった違いはしっかり押さえていただきたいと思っています。さらに、

この審議会でどうこうできる話ではないかもしれませんが、例えば福島テルサなどが文化振興課の所管ではないことも、全体の文化施策を考える上では課題ではないかと感じています。文化をつくっていく施設であるにもかかわらず、所管が分かれているため、全体として動きづらくなっている面もあるのではないのでしょうか。そういったことも含めて、改めて考え直す必要があるのではないかと思います。

**(会長)** ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

**(委員)** すみません。少し前の議題に戻るのですが、ロケツーリズムの推進についてお聞きしたいことがあります。今回、映画公開に合わせてさまざまなPRが行われていると思いますが、コンベンション協会の方にお聞きしたいのは、経済波及効果約2,300万円という数字がどのように算出されたのかということです。また、ロケ誘致に関してですが、例えば美術館にも「撮影に使いたい」という相談があります。ただ、営利目的の場合の取り扱いなどが整理されておらず、なかなか踏み切れない部分があります。今回のゴッホ展でも多くの方に来ていただき、「素晴らしい施設ですね」「撮影で使いたいですね」といった声もありました。一方で、免許センターなどの公的施設では実際に撮影が行われています。そういった施設で撮影が実現した経緯や、進めるうえでのポイントなど、参考になる話があれば教えていただきたいと思います。それからもう一点です。昨年、イベントの時期がちょうどピーチホリデーの期間と重なっていたので、PRチラシを配布しました。非常に反応が良く、置くとすぐなくなる状況でした。ただ、そこからQRコードを読み取って実際に店舗へ行くというところまでは、なかなかつながりにくい印象がありました。今回のゴッホ展ではホームページも見やすく、カラー冊子も作成されて話題になりましたので、今後はピーチホリデーでも「このお店ではこんな桃スイーツが食べられますよ」といった情報を、もっと分かりやすく発信できると良いのではないかと思います。また、ゴッホ展については市長がSNSで積極的に発信してくださったことも大きかったと思います。PRの面では、市長による発信も非常に効果があると思いますので、ぜひお願いしたいと思います。ロケツーリズムについて何か参考になるお話があればお聞かせください。

**(委員)** 私も直接の担当ではないので詳しいところまでは分かりませんが、ロケ対応の担当者は基本的に現場を回っています。撮影というのは本当に朝早くから夜遅くまで行われますので、撮影隊に同行しながら対応しているようです。免許センターなどでも撮影が行われていますが、施設側の責任者、例えば所長さんなどの理解や判断も大きいという話は聞いております。また、経済波及効果2,300万円の算出方法については、私も詳細は把握しておりません。算出方法はいろいろあるようですが、この数字の根拠までは申し上げられません。ピーチホリデーについては、参加店舗がフルーツライン沿いや郊外に多く、行きたくてもアクセスしづらいことや、小規模店舗が多いため混雑して利用しづらいという声もあります。ご意見については担当に伝えたいと思います。

**(会長)** 2,300万円ということは、23件で計算すると1件あたり100万円ですね。おそらくホテル代、弁当代、タクシー代などを積み上げたものではないのでしょうか。

**(委員)** ゴッホ展のときに、半地下のところで物販をしていましたよね。あれは特別に設けた場所だったんですか。それとも普段から使っている場所なんですか。入場者が展示を見る列と物販の列で混在していて、少し分かりづらかったように感じました。チケットも小さいので、どこに入れたか分からなくなって探したりもしたんです。例えば、「この先に物販コーナーがあります」といった案内がもう少しあれば良かったのではないかと思います。また、物販スペースももう少し広い場所が確保でき



ないのかなと感じました。

(委員) 実は、あのスペースでも神戸展などと比較すると広い方なんです。神戸ではエントランスで販売していましたし、上野では展示を見終わった後に外へ出て、さらに1時間ほど並んでから物販という形でした。ただ、通常の展覧会ではあのような運用はしておりません。今回、皆さんが展示をご覧になったあとに入った半地下のスペースは、本来は展示室なんです。当初は屋外にプレハブを設置して物販を行う計画だったのですが、天候や積雪などの問題があり、最終的に館内で対応することになりました。そのため、後から工夫して設けたスペースだったんです。そういった経緯もあり、通常の展覧会とは異なる動線になってしまいました。皆様にはご不便をおかけした部分もあったと思います。今後は、より分かりやすい場所や動線を含めて、最初からしっかり検討していきたいと思います。ご意見ありがとうございました。

(委員) 通常は最後の展示室を出たところに物販コーナーがありますよね。

(委員) そうですね。通常はそのような形で運営しております。ただ、今回は特別展ということで、通常とは異なる動線になってしまいました。

(会長) ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

(委員) この前、若隆景関が優勝されて、駅前でパレードがありましたよね。私もたまたま見に行ったのですが、そのときに福島駅前にあれだけ多くの人が集まるんだということに驚きました。文化に直接結び付けるのは難しいかもしれませんが、福島で育った方々が相撲界で活躍し、それによって街に大きなにぎわいが生まれているわけです。例えば古関裕而さんのように、福島ゆかりの人物を活かした事業はたくさん行われていますが、若隆景関たちのような存在も、文化的な視点から何か活用できるのではないかと感じました。

(会長) ありがとうございます。相撲文化を福島の文化として捉えていけないか、というご意見ですね。

(委員) 大相撲は権利関係などもあり、なかなか難しい面もあると聞いておりますが、確かに福島で育った方々であることは間違いありません。

(事務局) 今お話のあったパレードについては、何とか成功させることができ良かったと思っております。当初は5,000人程度の来場を想定しておりましたが、公表では約15,000人、実際には18,000人近くの方が集まったのではないかと考えています。若隆景関、若元春関、若隆元さんの三兄弟は、福島市の観光PRにもご協力いただいております。これまでは長男の若隆元さんが現役力士だったため、活動に制約がありましたが、引退されたことで、今後は三兄弟そろって活動していただけるようになります。実際に、「福島のために何か協力したい」というお話もいただいております。今後、さらに優勝や大関昇進といった話題があれば、福島をPRする大きな機会になると思います。また、福島一中出身の丹治さんも、間もなく関取昇進が期待されております。もし実現すれば、福島県ゆかりの関取が4人になることになります。そういったことも含めて、福島の魅力として発信していきたいと考えておりますので、その際はぜひご協力をお願いいたします。

(会長) それでは、予定の時間もかなり超過しておりますので、このあたりで皆様のご意見をまとめさせていただきますと思います。報告事項及び協議事項を通して、多くの貴重なご意見をいただきました。事務局におかれましては、これらのご意見を取りまとめ、今後の事業や来年度の施策に反映していただければと思います。